

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770500415		
法人名	医療法人社団 素耕会		
事業所名	富士グループホームほほえみ		
所在地	香川県観音寺市観音寺町甲2899番地3		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念に「誠心」を掲げ、住み慣れた町中で「その人らしく」心安らぐ生活が送れるよう、ご本人様の気持ちはもちろん、家族環境なども念頭に日々の生活支援に努めております。コロナで外出・外食などを控えなければならなくなった中、季節の行事食やお誕生日会にはリクエストのお祝い食をご用意するなど、外出ができない分「食」を通して季節感や楽しい・嬉しいを味わって頂けるよう心掛けております。また、コロナ禍において、短い時間でも面会時間を設けた上、毎月「近況報告」としてホームでの生活状況の写真を送付し、いつでも自由に会いにくくなった分、ホームの生活環境等を見て頂く事で少しでもご家族様の安心に繋がればと思っております。「職員が楽しくないと入居者は楽しくない！！」をモットーに、ご入居者様・職人がアットホームな雰囲気、一緒に楽しく過ごして頂ける環境作りに職員が一丸となり取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770500415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 3 月 8 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ過で外出ができない中で、食事に力を入れている。毎月何か行事に関する食事を取り入れ、誕生日には好きなメニューを出すようにしている。家族の面会は玄関で5分程度の面会をして頂き、少しコロナ禍が緩んだ時には、自宅に帰宅して頂くことで、家族とのふれあいを愉しんで頂いた。五類移行後は同居の家族のみ感染対策をして各居室で過ごして頂き、帰宅願望を拭い去って頂いた。「職員が楽しくしていないと、利用者も楽しめない」と色々考え、顧客満足(CS)だけでなく、従業員満足(ES)に重点を置いている。ある利用者が誕生日に「エビフライを食べたい」と言った時には近くのお店まで美味しいエビフライを探して、とても喜んで頂いた。管理者は家族に対しては、「もういいよ」と言われるくらい細かく施設での生活を報告をしている。家族には、短い時間でも頻繁に会いに来てほしいとお願いし、家族も協力的に施設まで来てくれることが増えた。創立した初代理事長の「お世話になった地域への貢献、恩返しをしなくてはいけない」という志が職員一人ひとりに受け継がれ、浸透している。理事長と職員は年に二回面会し、直接労ってもらえ、信頼関係に繋がりと、利用者や家族にも派生している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と運営理念を常に見える所に掲示しており、管理者含め全職員で共有し、入居者一人ひとりが住み慣れた町中で「その人らしく」心安らぐ生活が送れるよう、日々の生活支援に努めている。	理念は玄関と事務所、リビングに掲示しており、いつも確認でき、職員それぞれの言葉で理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、広報誌や回覧で地域の情報を得ている。また、観音寺南地区第2層協議体「スマイル観南」の毎月第一木曜日に行われている定例会に出席。防災や福祉等、地域のお困りごとについて話し合い、講習会などの立案・実施等を行っている。	自治会に入会して、会員同士での話し合いをしていて、地域の困り事の相談や防災関連の話し合いをしている。ちょうさ祭りの行列が近くを通る年には活発に情報交換をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	観音寺南地区第2層協議体「スマイル観南」でGHほほえみでの生活状況や取り組みを地域の方に紹介。カラオケ機材を用いて実際にホームで行っている体操やアクティビティも体験して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面交付での開催であったが、5/8の5類感染症移行後は対面で開催。地元自治会長や民生委員、地域代表者、元老人会会長、入居者家族を案内し、ホームでの取り組みや問題点等を報告。頂いた意見を参考に運営に生かしている。ただ、感染予防の為入居者は参加しない上、開催場所もホーム以外で実施。	運営推進会議には自治会長にも参加をしていたが、対面での会議を再開した時には、自治会長宅の喫茶店で開催した。事業報告や研修報告、事故報告、入居状況などを話している。	会議に様々な立場、職業の方を招いて情報収集に役立ててみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回開催の運営推進会議や地域密着型連絡会で市高齢介護課職員にホームで抱えている悩み、問題点等を相談し意見を聞いている。また、業務の中で分からないことや疑問点等については、その都度市に問い合わせている。	窓口は管理者で、二か月に一回地域密着の協議会があり、研修会を行っている。わからない事があれば、何でも質問し、教えていただける関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束適正化・虐待防止委員会を設置し3ヶ月に1回定期開催している。また、施設内研修も実施し法人全体で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。夜間のみ出入り口の施錠については入居者の安全を最優先かつ、夜間の職員体制等踏まえ施錠の必要性について入居時に説明。了承を得た上で入居して頂いている。	身体拘束委員会と虐待防止委員会を三か月に一回行い、拘束行為、虐待行為の確認をしている。全国での事例報告や、緊急対応の場合の対応も資料を集め検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束適正化・虐待防止委員会を設置し3ヶ月に1回定期開催している。また、施設内研修も実施し高齢者虐待に関する法律を踏まえ、法人全体で高齢者虐待防止の徹底に取り組んでいる。また心理的虐待については、日頃何気ない言動が虐待に繋がるケースもある為、言葉遣いなど接遇マナーの研修も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいない。また、入居者及び家族含め権利擁護に関する相談もない事から、管理者含め大半の職員が理解できていないのが現状。今後は、研修等で学ぶ機会を設け、理解し活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談の時点で予め当ホームの概要を説明。入居契約時には契約書を用いて再度説明し、疑問点や不安・心配事を聞き、丁寧に説明を行うよう心掛け、納得・了承を得た上で締結している。また、介護保険の改定や料金等の変更については、書面にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族から相談や要望があった際は、担当した職員がしっかりと話を聞き、その内容を管理者に報告。その後、管理者が状況に合わせてその都度対応している。	家族からの意向は面会時や電話で直接伺い、利用者からも直接お聞きしている。家に帰りたく訴える利用者には理由を尋ね、何かを取りに帰りたい時には、持ってきたいものと同じものを、こっそり買って、送ってもらったようにして、個別に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が普段いつでも代表理事や管理者に直接相談できる環境及び体制を取っている上、管理者には携帯電話のラインを活用し相談ができるようにしている。また、毎年夏と冬の年2回、全職員に自己評価を実施。本人の課題や努力している点、要望等を把握した上で、法人代表理事と直接面談する機会を設けている。	職員は管理者に直接話している。施設の備品の事から休みの希望まで何でも気軽に話している。カラオケシステムのような大きい物の購入希望は管理者を通して法人に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記内容含め、毎年半年ごとに人事考課を実施。代表理事との面談を踏まえ、職員を具体的に評価するように努めている。また、必要な備品の買い替えや購入も前向きに実施しており、働きやすい職場の環境整備や人間関係の構築に努めている。研修や資格取得には法人が負担する助成制度があり、金銭的負担なく資格取得ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に必要な知識や技術については、施設内研修や各委員会等を通じて習得した上で、職員同士で共有するようにしている。また、管理者研修や介護支援員研修及び、認知症介護基礎研修など必須研修についてはWebで参加。ただ、感染症を考慮し、会場に集まって行う外部研修には参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回開催の地域密着型連絡会を活用して、他事業所代表者と意見交換するなど、積極的なネットワークの構築に努めるようにしている。ただ、5類に移行したとはいえ、他施設への訪問等職員の往来や活動は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の話を進める際には、できる限り本人に来所若しくはお会いし、困っている事や不安な事など直接話を聞いた上で、可能なら施設見学も実施。実際に生活する環境を見て頂く事で少しでも不安が解消され安心して入居できるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みには本人が来る事はほとんどない為、本人の前では言いにくい話やホームに対して家族の要望・希望等を聞いた上でサービス等概要を説明。認知症の方の対応施設である事から、まずは家族との信頼関係の構築に重きを置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記を踏まえ入居前には本人・家族の話をしっかり聞いた上で、ホームでできる事、できない事及び他の利用できるサービス等を説明。できない事でもそれに代わる代替のサービスを検討し提案するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本は「お客様」であり、何事もさせて頂くという気持ちであるが、全てを提供・支援するのではなく、できる事や得意とする事、また、経験を活かせるような事などは職員や他者と一緒に生活リハビリとして取り組んで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でも面会できる体制を取っていたのは、短い時間でも実際会ってコミュニケーションを取る事だと家族に本人の状態が把握して頂ける為。その上で、職員と家族が情報を共有し一緒に支えて行く関係性が構築できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には家族のみと制限は設けなかった為、家族以外の親戚や友人、近隣の方などの面会も実施。玄関先ではあるが面会は行っている。また、併設のデイサービスを利用している知人と挨拶や会話を楽しみにされている方もおり、時々でも会える配慮をしている。	家族だけでなく、近所の人や古い友人との面会は玄関で自由に行っている。親しい入居者と一緒に散歩に出かけることもある。自宅へも時々帰っていて、毎週帰る利用者もいるが、職員間で最新の注意を払って他の方に感染しないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の好き・嫌い、合う・合わない等を把握し、その時の状況に合わせた支援に努めている。また、何事も一人でしたい方や逆にしたくない方には無理に強制はせず、柔軟に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は積極的なコミュニケーションとまではいかないものの、必要に応じて連絡を取ったり相談に乗ったりしている。また、関連機関への情報提供等にも必要に応じて柔軟するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いや様子の変化を感じ取り、意向の把握に努めている。対応が困難な場合は、コミュニケーションなどを通してその方の性格や生活歴、家族からの情報等を踏まえ本人の意向に沿ったケアを検討するようにしている。	入浴時のように一対一の時によく話をする。帰りたと言われた時には家族に電話し、できる限り希望を叶えている。あまり話さない人は、夜にぼつぼつ話すので、夜勤者が聞くことが多い。利用者の意向は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は勿論、家族、居宅ケアマネージャー、ソーシャルワーカー等、入居前に携わっていた方から情報収集している。入居後も必要に応じて情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり生活パターンや好み、人間関係等の把握に努めている。また、心身状態に変化が見られた時は特に留意し、普段と違ったり、気づいた事は記録に残し現状の把握に努めている。情報については申し送り等で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ、心身の状態を維持しながら本人のペースで無理のない生活を送れるケアプランの立案に取り組んでいる。その為、記録や申し送り以上に、何より本人とのコミュニケーションを大切に現状の把握に努めている。	入居時に作成した計画は一か月から二か月で見直し、半年毎に更新する。本人家族、ケアマネジャーや医師と相談している。モニタリングは毎日の記録をつけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常の様子や活動・変化等を24時間を通して業務日誌やケア記録、モニタリングに記入。気づき等については申し送り等で話し合い職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族状況や緊急性の有無等に応じて受診の同行や買い物等、柔軟に支援を行っている。心身の状態変化時は迅速に家族に連絡。主治医と連携を取りながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事食にはできるだけ地域の飲食店からテイクアウトをしたり、地元の秋祭りのちょうさ見学も実施。近所の美容院も、誰もいない時に利用できるよう予め予約し利用している。ただ、コロナの影響で現状積極的な活用はできていないが、できる限り本人や家族の意向をもとに資源の活用を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、入居前の主治医での診察や薬の処方も可能である事を説明。また、同法人のクリニックへの移行や活用及び、歯科等の専門医の受診・往診も可能である事を入居前に予め説明している。また、医療情報等必要に応じて他医療機関との連携を図っている。	入居時に、二週間毎に訪問診療のある協力医に変わっている。他科や専門医は家族に送迎をお願いしている。歯科医は訪問医にお願いして、依頼すれば来ていただける。口腔経口が大事なので、歯科医の助言で、口腔ケアが徹底され食事の感触する利用者が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、看護師が原則毎週月曜日定期的に訪問し、入居者の健康管理に当たっている。また、注射や点滴に他の曜日に訪問に来た時や、入居者の普段と違った事や疑問に思った事はその都度相談できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院側に必要な物を聞いた上で、基本情報やサマリー等を用いて情報提供を行っている。受診時も同様で担当医への紹介状、お薬手帳等必要な物を予めお聞きするなど、情報交換や連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針を作成し、入居時には説明し同意を得ている。ただ、少しでも変化があった時は、家族に連絡し早めに受診して頂いた結果、入院となるケースが多い。また、常時医療処置や医療行為が必要となる場合は、家族と事前に相談し、他施設への転所等の説明を行っている。	入居時に「重篤化した場合の対応にかかる指針」で説明し、署名をいただいている。重篤化した時に改めて再度詳しく説明し、今後の方針を医師から伝えて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や介護事故の対応に備え、施設内研修等で知識の習得に当たっている。また、緊急時には昼夜を問わず富士クリニックDr.及び、管理者に連絡し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年5月は昼間、11月は夜間を想定しての火災避難訓練、また、11月の香川県シェイクアウトに参加。施設内研修では知識や職員の取るべき行動等について学ぶ機会毎年実施している。本来避難訓練には地域の方へ参加を依頼しないといけませんが、コロナ等感染症により地域の方の参加は行っていない。	年に二回、昼夜想定で火災避難訓練を実施している。利用者も参加し、階段を介助して下りたり、通報訓練や消火訓練を行った。では香川県の総合防災訓練にも参加し、地震の対応を訓練している。事務所には初期対応のマニュアルを貼っている。備蓄品は水や食料の他に簡易トイレや防護服の用意をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修等を通じて、介護現場におけるプライバシーについて考え、理解を深めている。特に入浴時や排泄時に関しては出来るだけ羞恥心、自尊心を尊重し、プライバシーを損ねないようにしている。入居時には家族にもホームでの取り組みを説明し理解して頂けるよう努めている。	呼称は苗字にさん付けで呼んでいる。入浴や排泄時の介助の際にはきちんと戸を閉めるようにしている。居室にカギをつけてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナで様々な制限を強いられる中、短時間でも家族に会える時間を作り、感染が緩んだタイミングでホーム側から外出を依頼した事もあった。また、思いや希望については聞いた内容を家族に伝え、できる限り実現するよう努めている。ただ、家族の希望やコロナの影響により説明した上でお断りするケースもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はほぼ決まっている中、本人のやりたい事、逆にやりたくない事の発言には拒否や否定をする事は基本なく、一人ひとりのペースで生活できるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替え(衣類)の選択は自分でできる方は入浴前に本人を選んで貰っている。できない方についても職員が準備した衣類を着る前に聞くようにしている。理美容については行きたいタイミングで近所のお店に行ったり、家族と一緒に昔から行っている理容店に行っている方もいる。また、化粧水や乳液も少なくなれば家族に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナによりホームでの外食を避けている中、季節の行事やお誕生日にはリクエストを聞いて食べたい物をテイクアウトするなど、「食」を通じて楽しんで頂けるようにしてる。また、現在アレルギー等で代替え食を提供はしていないが、必要に応じて提供できる体制は取っている。後、コップの片づけやお盆拭きも毎日依頼している。	毎食職員の手作りで、スーパーへの買い出しから行っている。誕生日には本人の好きなメニューをだし、行事食は買ったり、仕出しで変化を付けている。お盆を拭いたり配膳を手伝ったりすることもある。	食事を楽しむという事を改めて考えてみませんか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の接種状況や、水分量を毎日記録し把握している。状態に応じて水分にトロミをつけたり、見た目を損なわない為、家族と相談して副食を目の前でハサミでカットするなど個別に対応している。また、朝食はご飯とパンの選択制を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやコップは職員が準備している。現在全員自力で行えているが、声掛けが必要な方には毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。夜間は3名が義歯洗浄剤を使用し口腔ケア及び口臭予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄回数や排便の有無をチェックし入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また、トイレでの失敗や衣類汚染がある方は、トイレに入る際に職員が声掛けや一部介助を行い、意識付けを行っている。夜間のトイレ回数が多い方などは家族に報告の上、泌尿器科ドクターに相談している。	現在はオムツの人はいなくて、自由にトイレに行っている。排泄の回数やパターンをチェックしている。夜間の回数が多い利用者は家族に報告し、ドクターに相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無が一目で分かるようチェック表にて把握している。また、牛乳やカルピス、オリゴ糖など便秘に効果があると言われる飲料の提供や、野菜を多く摂取して頂けるメニューを考案するよう努めている。水分摂取の声掛けや適度な運動も毎日実施。それでも便秘がちな方は主治医に相談。症状に応じてマグミットやセンソンドが処方され服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに原則週3回の入浴が行える体制をとっている。人数や曜日については業務内容により職員主導で一週間の予定を決めているが、午前・午後や順番については一人ひとり意向を確認するようにしている。入浴拒否のある方は成功事例を職員同士で共有し、それを実践するなど何とか入って貰えるよう創意工夫している。	入浴は週に三回の体制にしている。職員が一人で介助していて、「入れてくれない」と言う人には、カレンダーに印を付けている。入浴剤は使っていないが、冬至の柚子は入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけリビングや食堂で過ごして頂いているが、居室で横になりたい時や休息したい時は自由にして頂いている。ただ、昼夜逆転にならない様注意はしている上、居室の温度調節や特にこの時期は乾燥にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの処方薬を個別にファイルし、職員がいつでも閲覧できるようにしている。与薬については原則職員が実施。薬が変わった場合や新しく処方された物は業務日誌とケア記録に記録。全職員が把握し、服用後の状態変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、お盆拭きなどは生活リハビリとして毎日実施。男性の方も含め現在拒否される方はおらず、積極的に行って下さっている。また、カラオケ機材やアイパットの様々なコンテンツの活用や季節に応じてドライブや花見、行事の実施など、日々の生活の中でできるだけマンネリ化せず、良い気分転換が図れる支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日午前と午後に屋外散歩の時間を取り実践している。また、家族の方にはできるだけ一緒に外出をして頂けるよう依頼していると同時に、家族の支援が難しい方で外出支援が必要な方については、個別に職員と一緒に買い物に行く事もある。ただ、コロナにより全員で屋外へは行くものの、屋内への外出は控えている。	天気が良ければ毎日施設の周りや、近くの神社に散歩に出かけている。桜や紫陽花、ひまわり、紅葉など、季節の花や寛永通宝を見に行ったり、金刀比羅八幡宮へドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本現金は預り金としてホームで預かり、必要な物はそこから職員が支払った後、出納帳に記載。新たに入金があった際に出納帳のコピーを家族に渡し、現金の用途を確認して頂いている。ただ、よく自宅に帰る方で、帰宅の際に黙ってカバンに現金を持って帰所する方については、家族から本人の安心の為となくなっても構わないとの了解を得て、自室で所持している方が2名おられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が3名いる上、基本本人の希望により電話をかけたり、かかってきた電話を取りついたりしている。ただ、家族から「仕事中の電話はやめて欲しい」と言われている方などは理由を説明し、一旦拒否するケースもある。手紙やはがきについても、届いたものは直接本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温についてはその都度皆さんに確認しているが、夏の冷房については職員は動いている分暑く感じる為、冷えすぎにならないよう留意している。また食堂には入居者と一緒に作成した季節にちなんだ壁画を展示。廊下にも毎月家族に送っている近況報告や運営新会議使用した写真及び、行事の写真などを展示し、目で楽しむと同時に回想して頂ければとの思いも込めている。	殆んどの利用者がリビングを利用している。利用者が作成した大きな貼り絵や、常時の写真を掲示している。過ごしやすい環境にしている。職員が時々寄り添い、おしゃべりをして和んでいた。利用者同士、仲が良く、時々、笑い声や笑顔が舞っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は混乱やトラブルを避ける意味合いから、名札を置きあらかじめ席を決めているが、リビングは自由に好きな所に座れるようにしている。ただ、暗黙の了解で自分の座る場所と決めている方がおり、「そこは私の席」と先に座っている方に言う方もいる。独りにないたい方はその都度自室に戻っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が変わるだけでも不安が大きい事から、入居の際にはできるだけ今まで使用していた物を持ち込んで頂くよう依頼。少しでも安心かつ居心地よい居室となるよう、馴染みの物や趣味を行うテーブル等を置くようにしている。ただ、安全面の配慮から生活動線には留意している。	居室はどの部屋も清潔感が溢れ、住みやすい雰囲気を感じる。自宅で使い慣れたものを持ち込んでいて、家族の写真を壁に貼っている方もおられる。ベッドから落ちて転倒し易いところには、ものや家具を置かない配慮をされていて安全面まで心配りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はもちろん、施設内の移動も歩行器や杖など補助具を使用しながら自力歩行で自由に移動が行えている。また、完全バリアフリーの上、必要に応じて浴室の手すりを増設するなど、安全面にも十分考慮しつつ、自立支援を促せるような環境整備に取り組んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				